

C-130J、F誘導路への初の不整地着陸訓練を実施 *Yokota performs first-ever C-130J assault landing on Foxtrot taxiway*

April 2, 2020

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

チーム横田は3月26日、初めてF誘導路(未舗装)を使ったC-130Jの不整地着陸訓練を行った。

F誘導路は、1991年から2001年の間に以前のC-130Hが使用していたが、その後はコンクリート舗装したメインの滑走路が使われるようになった。今回の演習では、引退していたF誘導路が滑走路に代わる着地点としての役を果たした。

C-130はいかなる状況下にある最前線の部隊にも物資を届けるため、滑走路がなくても着陸する手段を持っている。



訓練は、横田基地の飛行場関係者チームが、短く、狭く、入り込んだ、標識のない細長い不整地に着陸できる準備ができていることを確める目的で行われた。

機体はチームの連携なしに仮の場所に着陸することはない。訓練はC-130Jの乗員だけでなく、フライトラインを運用するチーム全体を対象に行われた。

「この演習を成功させたのは団結力だ。我々皆の素晴らしい連携を目の当たりにできた」と第374運用支援中隊運用官アーロン・チャーチ中尉は訓練を振り返った。

第374運用支援中隊飛行場運用小隊には、航空管制官、飛行場管理官、レーダーおよび飛行場気象システム技師がいる。それぞれが重要な任務を担い、横田の飛行場および飛行区域を運用するために一丸となって働いている。

「着陸地帯の計測と標識は通常、飛行場管理官の仕事で、C-130に着陸許可を出すのは管制官の仕事だ。横田では、第374運用支援中隊が必要時にどのタスクも担えるように、それら3つ全ての必要な技能を訓練している」とチャーチ中尉は述べた。

この訓練方法論の転換は、太平洋空軍の“機敏な戦力展開”のコンセプトを支援するものだ。

「太平洋空軍は、運用の基本概念と機敏な戦力展開を実現するための目標を与えてくれた。我々は、空兵を訓練し、技術を向上し、運用する方法を基礎から築いている」とチャーチ中尉は言った。

飛行場運用小隊は、部隊内の専門分野をクロストレーニングし、C-130Jの乗員が不整地でも強行着陸できる能力を備える。“機敏な戦力展開”の訓練における先駆者的存在だ。